

施策No.	政策名	快適で潤いのある生活環境づくり	主管課	農林課
409	施策名	自然環境の保全	関係課	商工観光課、環境対策課、都市整備課

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	市民 的 ・自然環境保全の意識を高めてもらう ・森林(里山)が保全され、憩いの場として活用されている	① 桜川市人口	見込値	人	区分	/	/	45,122	44,571	44,020	43,190	42,571	41,952
実績値													
見込値			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
施策の意図 成果指標名		① 自然環境を守る行動を行った事のある市民の割合	目標値	%	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
			実績値	71.2	70.6	70.4	68.5	66.9	72.7	74.2			
		② 市内の森林(里山)が憩いの場として活用されていると答えた市民の割合	目標値	%	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
			実績値	22.7	23.3	24.1	24.2	18.6	16.7	18.6			
		③ 山林面積	目標値	km ²	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
			実績値	68.8	67.7	67.2	63.6	63.6	63.5	63.4			
			目標値	/	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
			実績値	/	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
成果指標設定の考え方	○自然環境保全の意識を高めてもらう指標は、市民アンケートで、①「自然環境を守る行動を行った事のある市民の割合」が増えることで把握する。 ○森林(里山)が保全され、憩いの場として活用されている指標は、市民アンケートで、②「市内の森林(里山)が憩いの場として活用されていると答えた市民の割合」が増えることで把握する。 ○山林面積が保たれていることが、自然環境の保全につながると考えた。												
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ・1ヘクタール(ha)は0.01Km ² ・①は市民アンケート「自然環境を守る行動がありますか」のうち「行っている。」と答えた人を回答者数で割った数値。 ・②は市民アンケート「市内の森林(里山)が憩いの場として活用されていると思いますか」と答えた割合。 ・③税務課による毎年1月1日現在における山林面積。												

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1) 住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2) 行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりの自然を大切に、緑豊かな地域づくりに努める。 ○公園や緑地・親水空間の維持・管理に協力する。除草・清掃などを主体的に行う。 ・道路、河川、湖沼のポイ捨てごみの処理費も税金が使われることを認識する。(⇒ごみの無い景観) ・河川の水質汚染は、市民の台所から始まることを認識する。(⇒きれいな河川、湖沼) 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民や事業者に対し、自然環境保全に関する意識の啓発を行う。 ○公園・緑地や親水空間の整備に市民の意見を反映させると共に、維持管理に市民の協力が得られるような仕組みをつくる。
状況変化	3) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4) この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	<ul style="list-style-type: none"> ○植林された人工林の管理がますますできなくなり荒れていく。 ○石材業の撤退により採掘場の取扱いが懸案。 ○健康志向により自然の中を散歩する人が増えている。 ○CO2削減の取組みとして、全国的に市民主体の植林活動等も行われている。 ○環境意識は高まっている。 ○枯れた松の倒木被害が懸念されている。 ○放射能被害も懸念される。 ○山際地域でイノシシ被害が今後も懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○イノシシ駆除の要望がある。 ○市民アンケート調査では、満足度は平均よりやや低く、優先度は平均よりかなり低いほうである。 ○市民レベル(平沢、山尾、高森、雨引山)で、里山の保全活動が行われている。 ○遊歩道(関東ふれあいの道)の整備をしてほしいとの要望も過去に受けている。 ○遊歩道へのオートバイや四輪駆動車の乗り入れがあり、危険である。 ○松枯れによる倒木処理の要望がある。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 森林及び里山の保全	市民、市内の自然	森林(里山)が保全される	山林面積	実績値	67.7	67.2	63.6	63.6	63.5	63.4	
				km ²							
② 環境保全に関する意識の啓発	市民	自然環境保全の意識を高める	自然環境を守る行動を行った事のある市民の割合	実績値	70.6	70.4	68.5	66.9	72.7	74.2	
				%							
③ 森林及び里山の活用	市民、市内の自然	憩いの場として活用する	市内の森林(里山)が憩いの場として活用されていると答えた市民の割合	実績値	23.3	24.1	24.2	18.6	16.7	18.6	
				%							
④				実績値							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	26年度実績	27年度実績	28年度予算
① 本施策を構成する事務事業の数	件	12	12	12
② 施策事業費(一般財源以外)	千円	13,872	18,584	14,977
③ 施策事業費(一般財源)	千円	24,702	24,085	23,680
④ 施策事業費の計(②+③)	千円	38,574	42,669	38,657
⑤ 施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	6,701	5,548	5,682
⑥ 計(④+⑤)	千円	45,275	48,217	44,339

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
事務事業	身近なみどり整備事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業	森林機能緊急回復整備事業	H27貢献度上位
事務事業	林道整備事業	H28優先度上位

施策番号	409	施策名	自然環境の保全	主管課	農林課
------	-----	-----	---------	-----	-----

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を守る行動を行った事のある市民の割合は、21年度71.2%・22年度70.6%・23年度70.4%・24年度68.5%・25年度66.9%・26年度72.7%・27年度74.2%となり26年度より、環境を守る行動をとった人の割合は、わずかに増加している。 ・市内の森林が憩いの場として活用されていると回答した人は、21年度22.7%・22年度23.3%・23年度24.1%・24年度24.2%・25年度18.6%・26年度16.7%・27年度は18.6で1.9ポイント増加した。26年度までは減少傾向にあったが、近年は里山保全活動を行う市民団体も組織されてきている。里山保全活動の一環として植栽や下刈り、炭焼き、散策道の整備などの活動をしている。 ・森林面積は、21年度68.8km²・22年度67.7km²・23年度67.2km²・24年度、25年度は63.6km²・26年度63.5km²・27年度は63.4km²。21年度から5.4km²減少した。これは平地林等の減少によるものと思われる。 ・市内の湖沼では、外来種(アメリカナマズ、ブラックバス等)が繁殖し、既存の生態系に影響を与えている。 		

1)-②成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> ①自然環境を守る行動を行った事のある市民の割合は、27年度目標値71.0%に対し74.2%と3.2ポイント上回った。 ②市内の森林(里山)が憩いの場として活用されていると答えた市民の割合は、27年度目標値29.0%に対し18.6%と10.4ポイント下回った。 ③山林面積は、27年度目標値66.7km²に対して63.4km²と3.3km²減少し目標値を下回った。 		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や来訪者が気軽に自然とふれあうことのできる環境が不足している。こうしたなか、市民レベル(平沢・山尾・高森・雨引山)で、里山の保全活動などを通じて、自然環境の素晴らしさを再確認させるための活動が展開されており、景観や自然環境に対する関心が高まりつつある。 		

tuujite			
実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画策定時のアンケート調査では、この施策における住民の満足度は平均よりやや低く、優先度は平均よりかなり低い位置にあり要注意項目となっているが、自然環境にも、徐々に関心が高まってきており、里山保全に関心を持つ活動団体も出てきている。 ・国全体で自然環境保全、エコに関する関心は高くなってきている。 		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・27年度においては、「自然環境保全に取り組んでいる市民」と「森林」を重点対象に、「森林の適切な管理をする」「緑化の推進」「自然の里山を整備(維持管理)する」ことを重点に取り組んだ。 ・事務事業貢献度評価の結果から、貢献された事務事業は「森林機能緊急回復整備事業」「身近なみどり整備事業」であった。 ・「森林機能緊急回復整備事業」は、森林湖沼環境税を活用し、大泉地区外9か所の民有林(10.0ha)のスギ・ヒノキ類の間伐作業を行い、森林のもつ公益的機能の向上を図った。 ・「身近なみどり整備事業」は、犬田・青木地区外5か所の民有林(6.5ha)の間伐採及び竹林整備を実施した。 ・その他の事務事業では、「富谷山ふれあい公園管理運営事業」は、共生林整備事業・生活環境保全林整備事業として、公園内及び遊歩道や林道の草刈り等を実施し、公園の維持管理を行い自然と触れ合う余暇活動の場として機能向上を図った。「森林公園等清掃管理業務委託事業」では、森林公園内の清掃や草刈り等を行い、市民が気軽に自然と触れ合いができるよう維持管理に努め機能向上を図った。 ・また、「林道整備事業」は、前年度に続き林道全線の草刈りや補修工事そして、端上線の舗装工事・酒寄線の改良工事・丸山線の測量及び設計を行い、林道としての機能向上を図った。
-------------	---

8. 総合計画後期基本計画(H24～)の振り返り

区分	これまでの取組成果	今後の課題(未着手の事業、未達成の理由など)	今後の方針	
施策全体	<ul style="list-style-type: none"> ・森林湖沼環境税を活用し、「森林機能緊急回復整備事業」による民有林の間伐作業及び作業道路の開設など森林機能の向上のための事業を継続的に実施した。 ・平地林や里山林の整備・保全を推進するため「身近なみどり整備推進事業」による下刈りや竹林整備を継続的に実施した。 ・林道整備事業を継続し林道機能の維持及び向上を図った。 ・豊かな自然環境を保全すると共に、自然と触れ合う余暇の場として、森林公園の維持管理に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市では、里山保全活動を行う市民団体も組織されてきており、植栽や下草刈り、散策道の整備などの活動をしている。 ・森林面積は現状水準を維持しているが、林業としては成り立っていない。それとともに森林が荒廃し森林の持つ公益的機能(湧水や洪水の緩和、水源のかん養機能、山地災害の防止機能等)が果たせなくなっている。 ・中山間地域(山際)でのイノシシ被害等の要因にもなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の持つ公益的機能回復のため、里山保全活動をする市民団体等の活動の拡大などを促進することや、市民への環境意識の啓発に取り組む必要がある。 ・豊かな自然環境を維持するため、森林湖沼環境税を活用し、間伐、伐倒等による環境整備を進める。 ・イノシシが中山間地域に近寄りにくい環境整備を推進する。 	
基本事業	①森林及び里山の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・森林機能緊急回復整備事業による間伐及び作業道路の開設などの事業実施。整備面積はH24 8.69ha、H25 6.60ha、H26 8.92ha、H27 10.0ha。 ・身近なみどり整備推進事業による下刈り・伐倒及び竹林整備を継続的に実施。整備面積はH24 2.00ha、H25 5.00ha、H26 4.20ha、H27 6.5ha。 ・林道整備事業を継続し、林道機能の維持及び向上を図った。筑波稜線林道・林道酒寄線・林道端上線の改良舗装工事 ・継続的な森林公園の維持管理を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林面積は現状水準を維持しているが、林業は産業として成り立たなくなっている。森林が荒廃し森林の持つ公益的機能が果たせなくなっているため、国・県からの補助を受けて間伐・下刈り・植栽等を進め環境保全に力を入れていく必要がある。 ・今後、要望通りに事業を継続・拡充するためには特定財源の確保が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まち・ひと・しごと創生事業」として位置付けした森林及び里山の適切な管理をするため、森林の除間伐、林道の整備を進めます。 ・森林の乱開発の抑制を図ります。 ・木質バイオマス関連事業の創出を図り、森林資源の利活用にかかわる一連の事業の流れを構築し、民間事業者による取り組みに参画する。
	②環境保全に関する意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・市内7団体ある「緑の少年団」「森林愛護団体」に補助金の交付することで、森林や里山の保全を促進するとともに、環境保全に対する意識の啓発を図る。 ・道路・水路等に不法投棄された場合は、すみやかに撤去し環境保全に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林価値が下がり、山林へ立ち入ることが激減したこと、人の眼が届かず不法投棄が増えている。防止の看板等を設置すると逆効果になる場合もあり頭の痛いところである。 ・「緑の少年団」「森林愛護団体」との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・林道等から不法投棄された物を撤去し、環境保全の意識啓発に取り組みます。 ・森林ボランティア団体との連携強化を図ります。
	③森林及び里山の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・森林公園の危険箇所の改善や適切な維持管理を行うと共に、市民や来訪者が気軽に自然と触れ合う余暇活動として、地域住民や森林ボランティアによる道普請作業(木製階段の設置や枝打ちなどの山道整備)を実施した。(L=30m) 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林公園の下刈り等を行い自然とふれあい出来るよう維持管理する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林公園の維持管理を行い、市民や来訪者が気軽に自然と触れ合う余暇活動の場としての活用を図ります。